



消防通信



No. 4

～浜通り、元通り！がんばろう双葉～

発行日：平成24年7月1日 発行元：双葉消防本部 総務課
所在地：広野町下北迫字二ツ沼44-15 JFAアカデミー棟（ひいらぎ）荘内
電話：0240-25-8523 FAX：0240-25-8524
E-mail：honbu_soumu@futabashobohonbu.jp
URL：www.futabashobohonbu.jp/

東日本大震災から間もなく1年3ヶ月が過ぎようとしておりますが、未だに避難生活を強いられている住民の皆様については、心身ともにお疲れのこととお見舞い申し上げます。

私たち広域消防は、この1年3ヶ月の間、楡葉分署と川内出張所を拠点として20km圏内の警戒活動や仮設住宅のふれあい巡回訪問を実施して参りましたが、何よりも住民の皆さんが不在となった、警戒区域内での火災の発生防止に主眼をおいて活動をして参りました。警戒区域内は、草木が繁茂し、一旦火災が発生すれば延焼拡大してしまう危険もございましたが、一時立入時等においての住民の皆様方のご協力により、幸いに大きな火災の発生もなく安堵している所です。

しかし、今後も当分の間同様の状態が続く事が考えられますので、ひき続き気を引き締め、弛まず対応して参りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

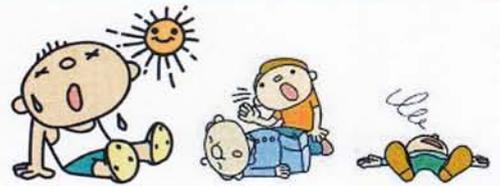
こうした厳しい環境のなかで、暑い季節を迎えることになりますと、心身ともに不調な状態に陥り易くなりますので、どうか十分な対策を講じていただきまして、健康で過ごされますよう心よりお祈りいたします。

双葉消防本部 消防長 西村 栄一

これからの季節は『熱中症』に注意しましょう！

熱中症とは・・・

屋外で直射日光を浴びながらの作業や運動、レジャーなど、あるいは屋内でも気温や湿度が高く、風通しが悪いところで身体の中の熱が充分体外に放散されない状態が続き、最悪の場合は死亡することもあります。



熱中症予防のポイント

- ❖ 部屋の温度をこまめにチェック！
- ❖ 室温28℃を超えないように！
- ❖ のどが渴いたと感じたら必ず水分補給！
- ❖ のどが渴かなくてもこまめに水分補給！
- ❖ 外出の際は涼しい服装で、日よけ対策も！
- ❖ 無理をせず、適度に休憩を！
- ❖ 栄養バランスの良い食事と体力作りを！

熱中症の応急手当

- ❖ 涼しい場所へ移動し、衣服を緩め安静に寝かせる。
- ❖ エアコンをつける、扇風機やうちわなどで風をあて、体を冷やす。



こんな時はためらわずに救急車を呼びましょう

- めまい、頭痛、吐き気・嘔吐（おうと）などの症状がでたり、自分で水が飲めなかったり、脱力感や倦怠感が強く動けない。
- 意識がない（おかしい）、全身のけいれんがある、手足が動かさない。

日頃から健康に自信のある方も、海水浴やレジャー中に熱中症を発症する可能性があります。

「自分だけは大丈夫」「あの人は大丈夫」と思い込まずに、上記のような症状が現れたら、ためらわずに救急車を呼んで下さい。



台風・ゲリラ豪雨等の対策について

日本は、台風・前線など気象的にも世界有数の多雨、亜熱帯的地域で毎年台風やゲリラ豪雨などにより洪水、土砂災害などが多発しています。

これからの季節、これらの災害に対する備えを普段から心掛けましょう。

★大雨時にはアンダーパスの冠水にご注意を

アンダーパスとは、交差する鉄道や道路などの下を通過するため、周辺の地面よりも低くなっている道路のことをいいます。地形的に雨水が集中しやすい構造となっています。

近年、全国各地で多発する集中豪雨（ゲリラ豪雨）により、アンダーパスの冠水により車両が水没するなどの重大な事故が発生しています。

避難先で土地の特徴が分かりづらい状況ではあると思いますが、日常生活の中で使用する道路で、冠水する危険がある場所を把握するように心掛けて下さい。



★大雨時のアンダーパス通行時の注意点

- 1、大雨時に、アンダーパス部を通行する場合は、十分にご注意して下さい。
- 2、道路が冠水している状況を発見した場合には、不用意に通行せず、迂回をしていただくなどの、危険回避を最優先で行ってください。
- 3、万が一このような冠水した道路に進入した場合には、まずは冠水場所から脱出することを優先して下さい。
- 4、もし、エンジンが止まってしまい、脱出が困難な場合は、窓を割ってでも、車内から脱出し、冠水の恐れがない安全な場所に退避していただくことが大切です。

★雨量と周辺状況目安

- 5mm~10mm/h：すぐに水たまりが出来、雨音が良く聞こえる
- 10mm~20mm/h：雨音で話が聞こえないことがある、長雨の場合災害の警戒が必要
- 20mm~30mm/h：下水があふれ、小河川が氾濫することがある。崖崩れの危険性
- 30mm/h以上：バケツをひっくり返したような豪雨、危険箇所は避難準備、危険と思ったら自主避難して下さい。

※双葉郡内の道路も昨年の震災の影響により地盤沈下している箇所や地盤が弛んでいる場所が多々ありますので、雨天時の一時立入の際には十分に注意をして走行して下さい。

○編集後記

去る5月23日、当消防本部に久保消防庁長官が訪問されました。未だに続く福島第一原発災害を管轄する我々の活動に対し、労いと励ましの言葉を頂き、職員一同身の引き締まる思いでありました。全職員、双葉郡の復興に向け全力で邁進する所存ですので、今後ともご理解とご協力お願いいたします。